

Takuya MIZUKAMI

水上卓哉

プロフィール・作品や制作について

アトリエ/452-0943 清須市新清洲2-2-2
ARTE新清洲 1階 Galeri卓
連絡先/452-0803 名古屋市西区大野木4-534-1

《TEL/FAX》052-502-2997 《mobile》090-6804-5186
《HP》<http://www.atelier-takuya.com>
《Mail》info@atelier-takuya.com



Profile

1990年 名古屋市生まれ

2017年 京都造形芸術大学大学院芸術研究科(通信教育)芸術環境専攻修士課程 美術・工芸領域洋画分野 修了

《現代美術家協会 会員》《愛知芸術文化協会ANET 会員》

個展/2010年「はじめの一歩」(名古屋銀行小田井支店)、愛知

2011年「一筆の祈り」(銀座 大黒屋ギャラリー)、東京

2012年「oneness ~ひとつの命~」(名古屋銀行小田井支店)

2014年 真宗大谷派名古屋別院教化事業部主催「水上卓哉展 楽しんで生きてる?」(ギャラリー東別院)、愛知

2014年 名古屋市人権週間記念企画展「水上卓哉作品展 200年後の対話」(なごや人権啓発センター ソレイユプラザなごや)、愛知

2018年 Galeria 卓オープン記念「伝えたい想いは変わらない」(Galeria 卓)、愛知

2018年「水上卓哉作品展『ここから...』~初個展から今までをたどる~」(名古屋銀行小田井支店)、愛知

2019年「生きてく証」(名古屋栄三越 ジャパネスクギャラリー)、愛知

2019年「またここで会おう」(ガルリラペ)、愛知

2020年「地球からの手紙」(大丸京都店 美術画廊)、京都

2021年「VOICE-地球の声をきく-」(名古屋三越 ジャパネスクギャラリー)、愛知

2022年「GALERIE La Paixガルリラペ5周年記念水上卓哉絵画展「希望の地球(ほし)」」、愛知

2022年「市民ギャラリー栄 次世代アーティスト企画展 水上卓哉の世界~イノチトハ~」、愛知

2022年「楽園」第3回水上卓哉絵画展(名古屋栄三越 ジャパネスクギャラリー)、愛知

2023年「Beautiful Planet ~奄美の風~」第4回水上卓哉絵画展(名古屋栄三越 ジャパネスクギャラリー)、愛知

グループ展/2011年~全国公募現展毎年入選(国立新美術館)東京、(愛知県美術館)愛知、(大阪市立美術館)大阪、(京セラ美術館)京都

2016年 第16回全国障害者芸術文化祭 招待展示(愛知県美術館)、愛知

2017年 prologue X III展:シェル美術賞入選者選抜展(gallery Art Point)、東京

2018年 パティオ池鯉鮒(知立文化センター)特別展「おーえん展(〇〇展)」、愛知

2021年~ AXIS EAST 現展若手作家選抜展(アーツスペース羅針盤)東京

2023年 愛知芸術文化協会《ANET》30周年記念展(古川美術館)愛知

2023年 小さな絵の展覧会(スペースプリズム)愛知

2023年 CROMOSOM/m.a.d.s gallery,Milano

2023年 BORDERS ART FAIR 2023/ Palazzo Albrizzi Capello,Venezia

2023年 BORDERPLACES International Art Fair/The LINE,London その他 多数

受賞/2015年 Big-i アートプロジェクト2015 入賞

2016年 シェル美術賞2016 入選

2017年 京都造形芸術大学(通信教育)修了制作展「研究室優秀賞」

2017年 第73回現展「クサカベ賞」及び準会員推挙

2017年 第2回融合・国際障害者芸術展(日本代表)「ベスト創造賞」 武漢市障害者博物館に収蔵

2018年 第229回ル・サロン2019 入選

2018年 シェル美術賞2018入選

2019年 FACE2019 損保ジャパン日本興亜美術賞 入選

2021年 第77回全国公募現展 名古屋移動展「中日新聞社賞」

2023年 第2回 FEI PURO ART AWARD トレンタ部門「準大賞」

2023年 第22回 奄美を描く美術展「大賞」

Art Works/2010年から「名古屋少年少女合唱団が贈るクリスマスコンサート」チラシ原画担当

2018年 7~9月 中日新聞 歌壇俳壇 カット担当

Statement

テーマはoneness。200年後の子孫に美しい地球を残すために人間が何をすべきか...採りすぎたり、汚しすぎたり、使いすぎたりしていないか。生き物の命の輝きを描くことで訴えていきたい。自作の紅茶インクは私を自由にする画材。水性白亜地の上に線を引く。主に油彩で彩色するが、最初の線を最後まで残すか、消すか、付け加えるか考慮し制作している。天然顔料、土、黒鉛なども使い表現の可能性を探る。

Follow Me

